労働者階級はすべてを指導しなければならない

姚 文 元

北 京 外文出版社

别
0035042

労働者階級はすべてを指導しなければならない

姚 文 元

[library seal]

外文出版社
北 京

出版者のことば

中国のプロレタリア文化大革命が偉大な闘争・批判・改革の高まりを迎えようとしているこの鍵になるとき、毛主席は、きわめて偉大な戦略的意義をもつ最新指示をだした。

『紅旗』誌一九六八年第二号に発表された姚文元同志のこの文章は、毛主席の、闘争・批判・改革をりっぱにやりぬくための最新指示を伝えるとともに、それを深くつっこんで解明している。また、労働者階級の指導のもとに、偉大な闘争・批判・改革の任務を全面的になしとげる進軍ラッパを吹き鳴らしている。

毛主席のことば

わが国は七億の人口を擁しており、労働者階級が指導階級である。文化大革命とすべての活動における労働者階級の指導的役割を十分に発揮させなければならない。労働者階級も闘争のなかで自己の政治的自覚をたえず高めていくべきである。

毛主席のことば

プロレタリア教育革命を実現するには、かならず労働者階級の指導がなければならず、労働者大衆が参加して、解放軍戦士と協力し、学校の学生・教員・労働者のなかの、プロレタリア教育革命をあくまでやりぬく決意をもつ積極分子と革命的三結合を実行しなければならない。労働者宣伝隊は長期にわたって学校にとどまり、学校におけるすべての闘争・批判・改革の任務に参加するとともに、いつまでも学校を指導していかなければならない。農村では、労働者階級のもっとも信頼できる同盟者——貧農・下層中農が学校を管理すべきである。

毛主席のことば

三結合の革命委員会の樹立、大批判、階級隊列の純潔化、党の整頓、機構の簡素化・不合理な規則と制度の改革・課室要員の生産現場への下放——工場の闘争・批判・改革は大体このようないくつかの段階を経る。

労働者階級はすべてを指導しなければならない

姚文元

偉大な闘争・批判・改革の高まりが、いまや到来しつつある。毛主席の最新指示が発表されたこと、意気さかんな堂々たる産業労働者の大部隊が指導をうけ、段取りをおって、学校および闘争・批判・改革のまだよくおこなわれていない他のすべての単位にはいりつつあることは、この高まりの到来をつげる信号である。この高まりは、各省・市・自治区の革命委員会の成立、大批判、階級隊列の純潔化など一連の活動がおこなわれたのちに、あらわれたものである。それは各分野に重大な変革をひきおこし、社会主義の経済的土台に照応しないすべての上部構造にはげしい衝撃をあたえ、広範な人民を教育し、潜伏している反動派を粉砕して、プロレタリア文化大革命を全面的勝利に向かわせ、社会的生産力の発展を大いに促すであろう。

各級革命委員会の前におかれている当面の重要な任務は、時機を失せず、闘争・批判・改

革を真剣に、りっぱにおこなうことである。この任務をなしとげるには、かならず労働者階級の指導を堅持し、「**文化大革命とすべての活動における労働者階級の指導的役割を十分に発揮させ**」なければならない。

十九世紀の中葉にマルクス主義が形成されはじめたときから、プロレタリア独裁をもってブルジョア独裁にとってかわらせるというスローガンがうち出されたが、それからこんにちまですでに百二十年を経ている。帝国主義、地主階級、ブルジョア階級およびその代理人である新旧修正主義者だけが、この徹底した革命のスローガンに反対してきた。中国共産党はこのスローガンをその基本綱領とするものである。このスローガンを実現するには、労働者以外の広範な大衆――主として農民大衆、都市の小ブルジョア大衆および改造可能な知識人――と連合し、かれらをみちびいて前進させなければならない。

プロレタリア文化大革命は、その全過程にわたって、ただ労働者階級というこの唯一の階級の指導のもとにすすめられてきたものである。われわれの党はプロレタリア階級の前衛である。毛主席をはじめとし、林副主席を副とするプロレタリア階級の司令部は、労働者階級、貧農・下層中農、広範な勤労大衆の利益を集中的に代表するものであり、全党、全軍、全国およ

び広範な革命的人民にとって唯一の指導の中心である。毛主席のプロレタリア革命路線、毛主席の各指示は、いずれも労働者階級と何億という革命的人民のさし迫った要求を反映しており、プロレタリア文化大革命全体にたいするプロレタリア階級の確固とした指導を具体的にあらわしている。まさに毛主席をはじめとするプロレタリア階級の司令部の指導のもとで、はじめて何億という革命的大衆の参加するこのようなプロレタリア文化大革命をおこすことができたのである。労働者階級の指導を堅持するためには、なによりもまず労働者階級の偉大な指導者毛主席の一つひとつの指示、労働者階級の最高戦闘指揮部の一つひとつの命令をすみやかに滞りなく実行するよう保証しなければならない。「多中心つまり無中心論」、縄張り主義、セクト主義など労働者階級の指導を破壊するさまざまなブルジョア階級の反動的傾向に反対しなければならない。各地の革命委員会はプロレタリア独裁の権力機構であり、各単位はみな革命委員会の指導をうけなければならない。われわれの国では、毛主席のプロレタリア階級の司令部に対抗するどのような大小の「独立王国」の存在も許されない。以前の党北京市委員会のような、毛主席の指示をこばみ、針一本とおさせず、水一滴しみこませない「独立王国」は、中国のフルシチョフらの大陰謀家どもが労働者階級の指導に対抗し、資本主義の復活

をおしすすめるための手段であった。この「独立王国」はすでに革命のあらしによって徹底的にうちこわされた。この階級闘争の歴史的教訓を、すべての革命家はしっかりと心にとめておかなければならない。ブルジョア分子に牛耳られている全国各地の大小さまざまな独立王国の公民たちも、この教訓を学ぶべきである。

労働者宣伝隊が教育の陣地にはいることは、天地をゆり動かす大きな出来事である。昔から、学校は、搾取階級とその子女によって独占されてきた。解放後、少しはよくなったが、それでも基本的にはやはりブルジョア知識人によって独占されていた。これらの学校を出た学生のうち、一部のものはさまざまな原因（その原因は大体において、本人が比較的よいか、あるいは教員が比較的よいか、それとも家庭、親戚、友人の影響をうけたかのいずれかであるが、おもには社会の影響をうけたことである）によって労働者、農民、兵士と結びつき、労働者、農民、兵士に奉仕することができるようになっているが、他の一部のものはそうすることができないでいる。プロレタリア独裁の国には、ブルジョア階級とプロレタリア階級が指導権を争奪するというきびしい事態が存在している。こんどのプロレタリア文化大革命のなかで、紅衛兵小勇将が奮起して、党内のひとにぎりの走資派にむほんをおこし、学校のなかのブルジョア

反動勢力は一時的に手痛い打撃をこうむった。だが、その後まもなく、一部のものがまたも暗躍し、大衆をそそのかして大衆とたたかわせ、文化大革命を破壊し、闘争・批判・改革を破壊し、大連合と革命的三結合を破壊し、階級隊列を純潔化する活動と党を整頓する活動を破壊してきた。こうした事態は広範な大衆の不満をひきおこした。現実の事態はわれわれに、このような状況のもとでは、学生、知識人だけにたよっていては、教育戦線の闘争・批判・改革やその他一連の任務をなしとげることはできず、かならず労働者、解放軍の参加がなければならず、労働者階級の確固とした指導がなければならない、ということを教えている。

毛主席は、さいきん、「プロレタリア教育革命を実現するには、かならず労働者階級の指導がなければならず、労働者大衆が参加して、解放軍戦士と協力し、学校の学生・教員・労働者のなかの、プロレタリア教育革命をあくまでやりぬく決意をもつ積極分子と革命的三結合を実行しなければならない。労働者宣伝隊は長期にわたって学校にとどまり、学校におけるすべての闘争・批判・改革の任務に参加するとともに、いつまでも学校を指導していかなければならない。農村では、労働者階級のもっとも信頼できる同盟者——貧農・下層中農が学校を管理すべきである」と指摘している。

毛主席のこの指示は、学校における教育革命の方向と道をさし示しており、それはブルジョア教育制度を徹底的にうちこわす鋭利な武器である。広範な青年学生は、労働者階級が学校の陣地を占領して、闘争・批判・改革に参加するとともに、いつまでも学校を指導していくのを熱烈に歓迎しなければならない。

労働者階級は階級闘争、生産闘争、科学実験という三大革命運動の豊かな実践的経験をもっている。労働者階級は、社会主義に反対し毛沢東思想に反対するすべての反革命的言動をもっとも深く憎み、搾取階級に奉仕する旧教育制度をもっともはげしく憎み、国家の財産を破壊し、闘争・批判・改革を妨害する一部の知識人の「内戦」行動にもっとも強く反対し、言行不一致の空念仏をとなえる習癖や二面派の作風をもっとも徹底的にきらっている。したがって、労働者階級大衆がプロレタリア独裁の主要な支柱――中国人民解放軍の戦士と結びつけば、毛主席の革命路線にそむくすべての誤った傾向をもっとも力強く阻止し、いろいろないわゆる「ながいあいだ懸案になっていた、大きな、むずかしい」問題をもっとも効果的に解決することができる。知識人が際限なく論議をくりかえして一向に解決できない矛盾も、労働者たちがやってくると、たちまち解決される。幕後にかくれて、大衆をそそのかして大衆とたたかわせ

たひとにぎりの悪人どもも、労働者、解放軍が参与することによってはじめて、その反革命の正体を徹底的に暴露することができるのである。

「労働者は、工場を管理するだけでたくさんだ」。これは反マルクス主義の観点である。労働者階級は、全人類を解放してはじめて、みずからを最終的に解放することができる、ということを知っている。学校のなかのプロレタリア教育革命を徹底的にやりぬかず、修正主義の根をとりのぞいてしまわないかぎり、労働者階級は、最終的に解放をかちとることはできず、資本主義復活の危険性は存在し、ふたたび搾取され、抑圧される危険性は存在しているのである。あらゆる分野の文化大革命にすすんで参加し、毛沢東思想ですべての文化・教育の陣地を占領することは、自覚的な労働者階級がになうべき責務である。

「われわれは自分で自分を解放する。学校外の労働者が参加する必要はない」。『中国共産党中央委員会のプロレタリア文化大革命についての決定』がのべているのは、「大衆が自分で自分を解放する」ということである。労働者は「大衆」のなかにはいらないとでもいうのだろうか。労働者階級は「自分」のなかにはいらないとでもいうのだろうか。口先で人をだますものではなく、すべての真のプロレタリア革命派は、みな労働者階級を「自分」の側の人だとみな

しており、人民大衆のなかでもっとも先進的な、もっとも自覚的な部分の人びとだとみなしている。労働者、戦士、学校のなかの革命的な積極分子による「三結合」こそ、大衆が自分で自分を解放するうえでもっとも信頼できる保証である。労働者を「自分」の側にはいらない異質の勢力だとみなしているものは、間抜けでなければ、かれ自身が労働者階級の階級的異分子なのであり、労働者階級は、このようなものにたいして独裁をおこなう理由をもっている。自分で自分を「プロレタリア革命派」だと称している一部の知識人は、ひとたび労働者階級がかれらのちっぽけな「独立王国」の利益に触れると、たちまち労働者に反対する。竜をこのむ葉公①のような人物が、中国にはまだ少なくない。このような連中こそ、労働者、農民を軽視し、とかく尊大な態度をとり、自分を大したものだと思いこんでいる人物である。ところが実際には、かれらこそ現代の葉公にすぎないのである。およそ知識人の集中している場所には、学校であれ、その他の単位であれ、みな労働者と解放軍がはいっていって、知識人が覇をとなえている天下をうちこわし、大小さまざまの「独立王国」を占領し、「多中心つまり無中心」論者ののさばっているところを占領すべきである。そうしてこそ、知識人が集中しているところの不健康な空気や作風、考え方を改めることができるのであり、知識人も改造され、解放さ

れることができるのである。

「労働者に教育のことなど分かりはしない」。一部のいわゆる「高級知識人」は、このようにいっている。きみたちのそうしたブルジョア知識人の鼻もちならぬ見えは、はらない方がよかろう！　教育には、ブルジョア階級の教育とプロレタリア階級の教育という二つの教育がある。きみたちの「知っている」のは、ブルジョア階級のエセ「学問」である。理工科を教えているものが機械を動かしたり、機械をなおしたりすることができず、文学を教えているものが文章を書くことができず、農業化学を教えているものが肥料の施し方を知らない。このような笑い話が、いたるところにころがっているではないか。理論と実践を一致させるプロレタリア階級の教育制度は、プロレタリア階級の直接の参加のもとで、はじめてしだいにつくり出されるものであり、きみたちはこのことについて、なにも分かってはいないのである。

「労働者は学校の事情を知らないし、二つの路線の闘争の歴史も知らない」。同志よ、心配は無用だ。労働者は、いずれ知るようになるのだ。労働者階級は、あの近視眼的な、自分の小さな縄張しか目にはいらない知識人にくらべて、どれほど水準が高いか分からない。かれらは三日や四日とまりこむのではなく、長期にわたって活動をつづけ、いつまでも学校を占領し、

学校を指導するのである。客観的に存在するすべての事物は、みな認識することができる。労働者階級は、自分の革命の実践を通じて、世界をいっそう深く認識し、労働者階級の姿にもとづいて世界を改造していくであろう。

労働者宣伝隊は、段取りをおって、計画的に大学、中等学校、小学校にゆき、上部構造の各分野のなかにゆき、闘争・批判・改革がまだよくおこなわれていないすべての単位にゆき、毛沢東思想を指針として、そこの、プロレタリア教育革命をあくまでやりぬく決意をもつ積極分子と団結し、かれらを援助し、改造可能な知識人をふくむ大多数の大衆と連合して、プロレタリア階級の徹底した革命精神で、そこの闘争・批判・改革を促進しなければならない。これは、中国の労働者階級が当面する偉大な歴史的使命である。この過程で、労働者階級自体もきびしい階級闘争の鍛練をうけるであろうし、大勢のすぐれた労働者の幹部がつぎつぎとあらわれ、学校を管理するだけでなく、国家機関の各方面や各級革命委員会を充実するようになるであろう。

この歴史的任務をなしとげるには、労働者階級は毛沢東思想を真剣に、りっぱに学び、毛主席が従来から教えている大衆路線と調査研究の作風を学び、たえず自分の政治的自覚を高め、

革命的規律性を強め、また労働者階級内部のさまざまな腐敗したブルジョア的な作風の侵食と影響をたえず批判しなければならない。文化・教育の単位では、ブルジョア階級は、伝統的な勢力をもっている。労働者階級がプロレタリア世界観つまり毛沢東思想で世界を改造しようとするとき、ブルジョア階級は、つねにそのブルジョア世界観で、指導的幹部をふくむ労働者の隊列の弱い部分をむしばもうとやっきになるものである。これにたいしては、かならず高度の警戒心を保たなければならない。また確固としたプロレタリア階級の立場を保持しなければならない。糖衣弾あるいはその他のかたちをとった手段による労働者の隊列への襲撃には、警戒心を保たなければならない。さらに、階級隊列を純潔化する活動を真剣に、りっぱにやりとげ、革命に力をいれ、生産を促し、工場やその他の企業の闘争・批判・改革をりっぱにやりとげなければならない。

毛主席はさいきん、「**三結合の革命委員会の樹立、大批判、階級隊列の純潔化、党の整頓、機構の簡素化・不合理な規則と制度の改革・課室要員の生産現場への下放——工場の闘争・批判・改革は大体このようないくつかの段階を経る**」と指摘した。

毛主席のこのことばは、闘争・批判・改革の段階における大衆運動の発展を総括したもので

あり、工場やその他の企業の闘争・批判・改革の任務をなしとげるうえで、われわれにはっきりとした道をさし示してくれている。

第一の任務は三結合の革命委員会をうち立てて、工場やその他の企業の指導権を真にプロレタリア階級の手に握らせることである。この任務は、大批判、階級隊列の基本的純潔化という二つの任務と結びつけて遂行されるのが常である。

革命的な大衆的大批判によって、人びとは、中国のフルシチョフと各地におけるその代理人がおしすすめてきた反革命修正主義路線の害毒を一掃し、二つの路線の闘争についての自覚を高めた。革命的な大衆的大批判はまた、政治、思想の面から階級隊列の純潔化に道をきりひらくとともに、階級隊列の純潔化をすすめる過程で、大衆を立ちあがらせ、闘争の成果をうち固める役割を果たしている。階級隊列を純潔化し、ひとにぎりの特務、裏切り者、死んでも悔い改めようとしない走資派およびよく改造されていない地主分子、富農分子、反革命分子、悪質分子、右派分子に、しっかりと、的確に、手きびしく打撃をくわえることは、労働者階級がブルジョア階級とすべての搾取階級にたいしてプロレタリア独裁をおこない、自己の隊列を純潔化し、内部にもぐりこんできた階級敵を一掃するきわめて重要な活動であり、それは大批判に

生き生きとした材料を提供している。この両者は互いに促進しあい、推進しあっている。大批判と階級隊列の純潔化は、党の整頓のためにもっともよい条件をつくりだしている。政治、思想、組織の各方面にわたる階級闘争のきびしい試練を経て、広範な党員の政治的自覚が大きく高まり、大衆との関係が大きく改善され、党内のきわめて少数の悪人が一掃され、党員の政治状況、組織状況が基本的にはっきりし、運動のなかでつぎつぎとあらわれた積極分子を吸収して党組織に参加させ、党に新しい血液をそそぎこみ、毛主席のプロレタリア革命路線を断固として実行する指導の中核をしだいに形づくっていく。こうすれば、われわれは党組織をりっぱに整頓できるのであり、毛主席の指摘した「**党組織はプロレタリア階級の先進的分子によって構成しなければならず、それはプロレタリア階級と革命的大衆を指導して階級敵とたたかうことのできる、活気にみちた前衛組織でなければならない**」という偉大な党整頓の目標を実現できるのである。

工場・鉱山企業における運動はこのとおりであり、文化・教育事業、党機関と政府機関における運動も大体このとおりである。

革命の高まりは生産の高まりをおしすすめている。数億の貧農・下層中農の努力によって、

わが国の農業生産は、なん年も豊作をかちとってきた。強固な農村の社会主義の陣地があってはじめて、都市におけるプロレタリア文化大革命はつぎつぎと勝利をおさめることができるのである。われわれは労働者階級の強固な同盟軍——貧農・下層中農に敬意を表する。闘争・批判・改革が深くくりひろげられるにともない、工業戦線にも多くの新しい事物がつぎつぎとあらわれてきており、すくなからぬ地方では、改革の過程ですでにさかんな技術革命がまきおこっている。情勢はすばらしく、人びとの心を奮いたたせている。復活を夢みるひとにぎりの階級敵は完全に破産した。いま、米帝、ソ修および世界のすべての反動派は四苦八苦のていたらくである。かれらはさんざんな目にあい、分裂・瓦解し、八方ふさがりの窮地に立たされている。これとは反対に、毛沢東同志の指導のもとにある、プロレタリア文化大革命を通じて鍛えられたわれわれの偉大な社会主義の祖国は、さんぜんたる光を放ち、その前途ははてしなく広がっている。われわれはかならず、発展しつつある情勢に追いつくよう努力し、十分に大衆を立ちあがらせ、適時に経験をしめくくり、調査研究をりっぱにおこない、典型をしっかりとつかみ、全面的な計画をたて、指導を強め、闘争・批判・改革というこの戦役をりっぱにたたかいぬかなければならない。これは、われわれがプロレタリア文化大革命の全面的勝利をたたか

いとるなかでの一戦役である。毛主席の偉大な戦略的配置にしっかりとしたがい、勝利の波に乗って前進しようではないか！

注

① 漢代の劉向（紀元前七七〜前六年）があらわした書物『新序』のなかの故事。「葉公は竜をたいへんこのみ、自分の用具や部屋のかざりに、竜をかいたり、ほりつけたりした。ところが、かれが竜をたいへんこのんでいるときいた本物の竜がかれを訪れると、かれは、腰をぬかさんばかりにおどろいた。これは、葉公がけっして竜をこのんでいなかったことを物語っている。」

労働者階級はすべてを
指導しなければならない

1968年　初版発行　　　　　　　　定価30円

出版者　外文出版社
（北京阜成門外百万荘）

発行者　中国国際書店
（北京 P.O. Box. 399）

編号：（日）3050—1818　　3—J—872P
00014

既刊図書案内

★毛沢東著作★

毛沢東選集（第一巻）　三〇〇円

本巻には、第一次国内革命戦争の時期（一九二四～一九二七年）と第二次国内革命戦争の時期（一九二七～一九三七年）における、毛沢東同志の十七編の著作がおさめられている。

毛沢東選集（第二巻）　三〇〇円

本巻には、抗日戦争が勃発した一九三七年七月から、蔣介石が発動した二回目の反共の高まりを撃退した一九四一年五月までの時期における、毛沢東同志の四十編の著作がおさめられている。

出版者　北京　外文出版社　　発行者　中国国際書店（北京）

毛沢東選集（第三巻）　三〇〇円

本巻には、一九四一年三月から一九四五年八月までの抗日戦争が最後の勝利をおさめた時期における、毛沢東同志の三十一編の著作がおさめられている。

毛沢東著作選　上製　五八〇円　並製　四四〇円

本書は、日本の広範な読者の毛沢東著作学習の必要にこたえて、毛沢東著作選読編集委員会が中国共産党中央委員会毛沢東選集出版委員会の指導のもとに編集した『毛沢東著作選読（甲種本）』（一九六五年四月第二版）を完訳したもので、中国革命の各時期における毛沢東同志の著作の一部三十九編がおさめられている。

出版者　北京　外文出版社　　発行者　中国国際書店（北京）

書名	装丁	価格
毛主席語録	赤色ビニール表紙	一五〇円
毛沢東主席の人民戦争についての語録	赤色ビニール表紙	二〇円
中国社会各階級の分析		三〇円
湖南省農民運動の視察報告		六〇円
中国の赤色政権はなぜ存在することができるのか		三〇円
党内のあやまった思想の是正について		四〇円
小さな火花も広野を焼きつくす		四〇円
大衆の生活に関心をよせ、活動方法に注意せよ		二〇円
日本帝国主義に反対する戦術について		四〇円
中国革命戦争の戦略問題		一〇〇円
抗日の時期における中国共産党の任務		四〇円

出版者　北京　外文出版社　　発行者　中国国際書店（北京）

実践論　四〇円

矛盾論　六〇円

抗日遊撃戦争の戦略問題　六〇円

持久戦について　一〇〇円

民族戦争における中国共産党の地位　四〇円

戦争と戦略の問題　四〇円

青年運動の方向　三〇円

『共産党人』発刊のことば　四〇円

中国革命と中国共産党　六〇円

新民主主義論　六〇円

延安の文学・芸術座談会における講話　四〇円

出版者　北京　外文出版社　　発行者　中国国際書店（北京）

毛沢東同志は論じている——
帝国主義といっさいの反動派はハリコの虎である　四〇円

アメリカの記者アンナ・ルイズ・ストロングとの談話　三〇円

「人民に奉仕する」「ベチューンを記念する」「愚公、山を移す」　四〇円

全世界の人民は団結して、アメリカ侵略者とそのすべての手先をうち破ろう
——アメリカ黒人、ベトナム南部人民、パナマ人民、日本人民とコンゴ（レ）人民、ドミニカ人民の反米正義の闘争を支持する声明と談話　三〇円

書物主義に反対する　三〇円

敵に反対されるのは悪いことではなく、よいことである　三〇円

農業協同化の問題について　四〇円

出版者　北京　外文出版社　　発行者　中国国際書店（北京）

人民内部の矛盾を正しく処理する問題について　六〇円

中国共産党全国宣伝工作会議における講話　四〇円

人間の正しい思想はどこからくるのか　二〇円

文学・芸術に関する五つの文献　二〇円

中国共産党中央委員会主席毛沢東同志の、アメリカ黒人の抗暴闘争を支持する声明　一〇円

「中国の赤色政権はなぜ存在することができるのか」「井岡山の闘争」「党内のあやまった思想の是正について」「小さな火花も広野を焼きつくす」　六〇円

哲学論文四編　一〇〇円

出版者　北京　外文出版社　　発行者　中国国際書店（北京）

★重要決定、理論論文★

国際共産主義運動の総路線についての論戦　三四〇円

目次内容

国際共産主義運動の総路線についての提案
ソ連共産党指導部とわれわれの意見の相違の由来と発展
スターリン問題について
ユーゴスラビアは社会主義国か
新植民地主義の弁護人
戦争と平和の問題での二つの路線
根本的に対立している二つの平和共存政策
ソ連共産党指導部は現代最大の分裂主義者である
プロレタリア革命とフルシチョフ修正主義
フルシチョフのエセ共産主義とその世界史的教訓
フルシチョフはなぜ退陣したか

付　録

ソ連共産党中央委員会が中国共産党中央委員会にあてた書簡
ソ連共産党中央委員会がソ連各級党組織と全共産党員にあてた公開書簡

出版者　北京　外文出版社　　発行者　中国国際書店（北京）

人民戦争の勝利万歳
――中国人民の抗日戦争勝利二十周年を記念して

林彪　四〇円

目次内容

抗日戦争の時期における主要な矛盾と党の路線
統一戦線の路線と政策を正しく実行する
農民に依拠し、農村根拠地を樹立する
新しい型の人民の軍隊を建設する
人民戦争の戦略・戦術を実行する
自力更生の方針を堅持する
毛沢東同志の人民戦争にかんする理論のもつ国際的意義
人民戦争によってアメリカ帝国主義とその手先にうち勝つ
フルシチョフ修正主義者は人民戦争の裏切り者である

中国共産党中央委員会のプロレタリア文化大革命についての決定　三〇円

中国共産党第八期中央委員会第十一回総会の公報　三〇円

画期的な文献　三〇円

出版者　北京　外文出版社　　発行者　中国国際書店（北京）

われわれの学習を改革しよう
党の作風を整えよう
党八股に反対しよう
学習と時局
『農村調査』のはしがきとあとがき
第二次世界大戦の転換点
指導方法のいくつかの問題について
組織せよ
連合政府について
毛主席の五篇の著作

出版者　北京　外文出版社　　発行者　中国国際書店（北京）

近刊予告

★毛沢東著作★

毛沢東選集（第四巻）

本巻には、一九四五年八月から一九四九年九月までの時期における、毛沢東同志の七十編の著作がおさめられている。

井岡山の闘争

何百何千万の大衆を抗日民族統一戦線へ参加させるためにたたかおう

統一戦線における独立自主の問題

新民主主義の憲政

当面の抗日統一戦線における戦術の問題

政策について

出版者　北京　外文出版社　　発行者　中国国際書店（北京）